ありがとうの循環

赤磐市立高陽中学校３年　　小林　未菜歩

中学生の私達にとって、一番身近な「税金」といえば「消費税」ではないだろうか。中学三年生の私は、五月に修学旅行で沖縄へ行った。日頃は、買い物へ親と行くことが多く、自分でお金を支払う機会は限られていた。だが、七百円分と決められた事前のおやつ購入は自分で行った。また、旅行中は決められたお小遣いの中で、家族や知り合いなど複数の人にお土産を購入したり、沖縄の名物を買って食べるなどした。お店では「本体価格」と「税込価格」が表示されていて、税込になるとグッと値段が高くなるような気がした。税抜きならもっと沢山買い物が出来るのにと思う経験をした。そこで、私も払っている消費税などについて私なりに調べてみた。

現在、日本の歳入（税収部分）で一番大きな割合を占めるようになったのが「消費税」である。消費税は景気に左右されず、安定的に得ることが可能なのである。中学生の私でも教師でも国会議員でも同じ税率を払うことになる。金額が明記され、その額を自分の財布から直接出す（＝財布の中のお金が目に見えて減る）ことで、負担感ばかりを意識しやすい気がする。しかし、本当に大事なのはその税金がきちんと使われているかどうかに目を向けることではないだろうか。

国の予算や地域の自治体の予算をしっかり確認することが大切である。私達の代わりに税金の使い道を考えてくれているのは、国や自治体の議員の方々。どんなお金の使い道に賛成・反対するのか、私達の投票次第で税金の使い道が変わることになる。だから、三年後には十八歳となり選挙権を得る私も今から関心を向ける必要があると思う。

国の歳出の中には、医療・福祉・教育関連のものもある。私達中学生が教育を受けるために年間一人あたり百万以上の税金が使われているそうである。一人一台のタブレットも導入され環境が整った中で学習出来るのも税金のお陰だと意識することはほとんどない。支払うお金には敏感だが、受けている恩恵には鈍感なことを反省しなければならない。

私は高校への進学を目指していて、現在、複数の高校のオープンスクールに参加するなどして情報収集している。令和二年四月から私立高校に通う高校生への国の就学支援金の上限が引き上げられた。これにより学費の面だけで私立高校に進学出来なかった受験生の選択肢が広がり私立高校もより身近になっている。学費を気にすることなく自分の夢や目標に向けて高校を選択出来るのは、元を正せば税金のおかげということになる。

今回の税金の学習にあたり新井和宏著『あたらしいお金の教科書（ありがとうをはこぶお金・やさしさがめぐる社会)』を読んだ。この中で「ありがとうの循環」という言葉が心に残った。税金を負担することは、回り回って自分も含めみんなの生活をより快適により豊かにすることにつながっていると感じた。